



天香山神社 (あまのかぐやまじんじゃ)

祭神は、櫛真智命神(くしまちのみことのかみ)。境内にある「朱桜」(にわぎくら)という古名で知られる「波波架の木」(ははかのき)は古代占いに用いられていたといわれ、古事記の天岩戸神話には、天香具山の雄鹿の骨を抜き取って「朱桜」の木の皮で焼き、吉凶を占ったとある。



三柱神社 (みはしらじんじゃ)、 保寿院 (ほじゅいん)

三柱神社は、天香具山の東北麓の橿原市膳夫(かしわて)町にある。聖徳太子の妃・膳夫姫が養母の菩提のために建てた「膳夫寺」の鎮守として、三宝荒神の火の神・竈の神を祀ったのが始まりと伝えられる。また、神社には珍しく北向きに建てられている。
なお、膳夫とは、食膳を司る役人のこと。古くは食器の代わりにカシワの葉を使っていたことから「かしわて」と呼んだようで、「て」は「手」で料理人のこと。
保寿院は、「膳夫寺跡」と伝えられている。本尊は虚空蔵菩薩。

三輪神社 (みわじんじゃ)

中ツ道と横大路の交差した場所に東面して鎮座する旧村社で、祭神は大物主櫛瓊玉命。また、石鳥居の脇に、江戸時代の「おかげ参り」で伊勢街道の目印になったという大樫の古木がある。



横大路 (よこおおじ)

日本最古の官道(国道)といわれている。当時(1400年前、推古天皇)、大陸との外交の玄関であった難波津から飛鳥の都を結ぶこの道を通じて大陸文化がもたらされた。別名、伊勢街道とも呼ばれる。

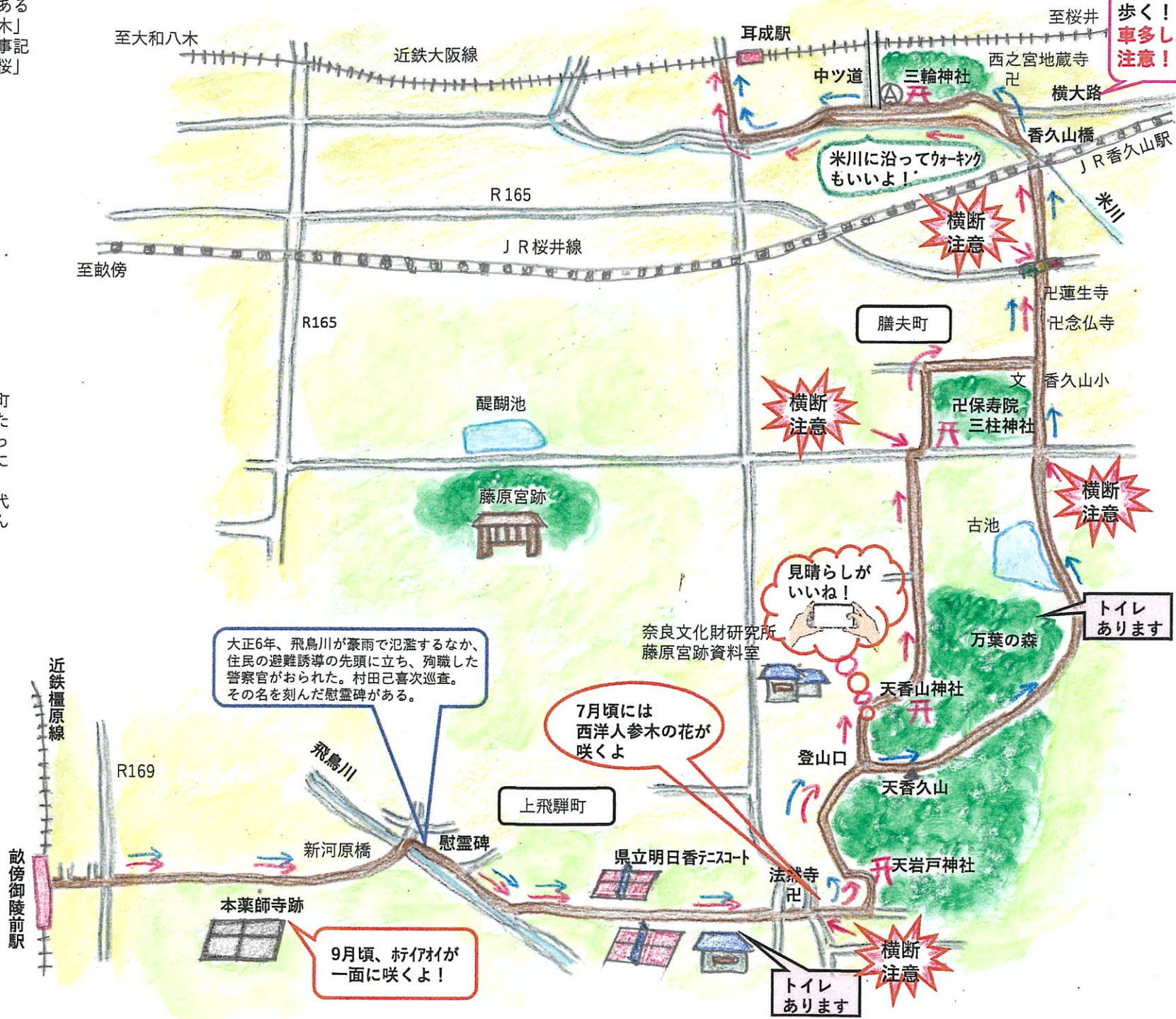
中ツ道 (なかつみち)

天香具山北麓から奈良市北之庄町に至る直線道。上ツ道と下ツ道との間を並行して通る。

※：歩数、距離、時間は目安です。

レギュラーコース	8,500歩、6.0km 95分
少しパワーコース	11,000歩、7.7km 110分

天香久山周辺を歩こう (畝傍御陵前駅～天香具山・山麓～耳成駅)



本薬師寺跡 (もとやくしじあと)

現在奈良市の西の京にある薬師寺の前身にあたる寺です。天武天皇が後の持統天皇である皇后の病氣平癒を祈願して、薬師如来を本尊とする寺を建立。跡地には、金堂の礎石や東西両塔の心礎などが残されている。周囲1.4haの水田には、9月頃美しい紫色の花、ホテイアオイが一面に広がる。



法然寺 (ほうねんじ)

鎌倉時代の初めごろ、法然上人が高野からご帰還の途上、この地に巡錫(じゅんしゃく)され、少林院を開いて念仏化導の道場とされた。現在は、法然上人霊蹟25霊場の第10番札所となっている。

天岩戸神社 (あまのいわとじんじゃ)

香久山の麓にある神社で本殿はないが、日の神・天照大御神が隠れた天岩屋または、天岩戸と言われる巨石がご神体です。境内には毎年新しい竹が7本育つ代わりに、別の7本が枯れ死するという「7本竹の不思議」が伝わっている。



天香久山 (あまのかぐやま)

大和三山の一つで標高152m、山というよりは小高い丘の印象であるが、古代から「天」という尊称がつくほど三山のうち最も神聖視された。万葉集にも数多く歌われている。山頂には神話の中で一番初めに出現した國常立命(くにとこたちのみこと)を祭神とする國常立神社がある。



体調に合わせて
ウォーキングを
楽しんで下さい!!

